

# 巻頭言

日本 ALS 協会北海道支部長 深瀬 和文

草木が色づく季節が参りました。季節の変わり目はお体の調子を崩す人が多いですけど会員様にはお健やかに過ごしの事と思います。

さて9月10月に日本財団の事業として日本 ALS 協会主催で北海道支部も共催でコミュニケーション講座が開かれました。

9月には専門職を中心に講義を行い定員30名のところを37名参加して希望者が多くてお断りするほどの反響でした。また10月の一般向けの講座には110名を超える参加者が来ており改めてコミュニケーションの大切さを北海道の人たちも気付いていると感じられました。9月の講義は専門職と云いましたが実際透明文字盤と伝の心を体験していました。実際に見ているのとやるのとでは違うみたいで専門職の人たちにはいい体験が出来たと思うしこの体験によって患者の立場と大変さが分かったと思います。10月の講座ではいろんなコミュニケーションがあることを一般社会に紹介して道具を使わない口文字を紹介しました。

ALSは特にコミュニケーションが取りづらい疾患なのでこれだけ北海道でもコミュニケーションに興味を持ってもらえる事は大変うれしい事です。せっかくなのでこの講座を機会として持続して皆さんと交流を持ちたいと思います。このコミュニケーション講座が北海道の第一歩としてこれからの難病患者のQOLの発展を祈って話を終わります。

